

卒業生の広場

電大硬式野球部を

御存知ですか

庄子貞雄

同じ学園で学んだ先輩から、社会の活躍を通して後輩へアドバイスを願う欄です。

今回は、(株)ユアテックの理事で営業本部内線部長として勤務され、校友会東北支部副支部長として活躍されている庄子貞雄氏（大学 IE 38 卒業）にお願いしました。

1. はじめに

原稿依頼を受けた時、何をテーマにしたら良いか困りました。仕事に関することでも書こうと思っている時、ちょうど野球部 OB の同世代で会合が開かれることになり、卒業後の学校とのつながりや、在学当時のクラブ活動の様子などを中心にふれてみることにしたいと思います。

2. 就職と校友会

実家が仙台市にあり、市内に本社のある(株)ユアテック（旧社名：東北電気工事(株)）に入社したのは昭和38年4月でした。2ヶ月後岩手県内に転勤になり、その後各地の建設現場を歩き7年振りに仙台市に戻ってきました。最初の1年間は校友会と連絡がとれていましたが、当方の居場所も知らせませんで、音信不通となりました。従って卒業から約22年間大学の状況は全く知りませんでした。

数年前、リクルートで会社の人事担当の者が電大を訪れ、そのときの電子工学科長の金田教授に面談した際、先生と同期の小生の名前が出たとのことで、それを切っ掛けに年に数回会うようになりました。その頃校友会の東北支部が設立され、2年毎の総会に出席しているうちに、本部より来仙される方との面識が広がるようになりました。年令や会社の役職等の関係もあったのでしょうか、そのうち副支部長に推薦されました。そんな訳で、



会社安全大会にて

会社の同窓生も40人を越え、校友会の評議員会、総会や同期会等への出席回数も増え、地方在住の中では大学との接触の機会の多い方に数えられるのではないのでしょうか。

3. 恩師と私

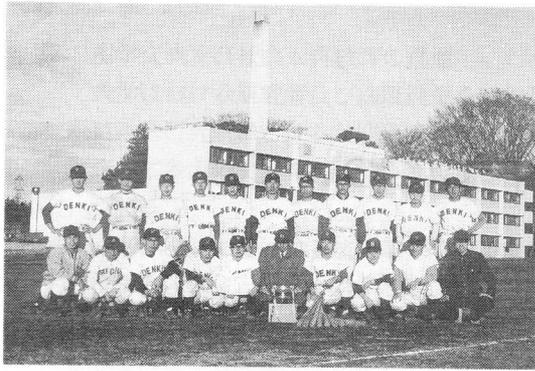
1年前の Homecoming パーティーの席で、廣瀬淳雄先生にお会いしました。卒業以来30年振りの為、多数の教え子をお持ちの先生が、小生を覚えていないのは当然でしたが、当時の色々なエピソード等をお話し、また、私の近況をお知らせし、時のたつのを忘れて楽しい時間を過ごしました。教え子の立場としては30年もの長い間、恩師へ会いに行かなかったことは、大変失礼であったと反省しております。このように長年会う機会がなかったのは、やはり地方在住であることによると、少々くやしい思いにかられました。

先生は電気設備業界に多方面で関係し、貢献されており、先日(社)電気設備学会の総会で名誉会員に推薦されました。その席で又お会いする機会があり、お祝いを申し上げることが出来ました。大変お元気なご様子で益々の健康と活躍をお祈り致しました次第です。

それについても小生はここ数年、同業者の会合等で組織の幹部として活躍されている同窓生に多く出会い、本学出身者の社会への貢献の大きさを感じ、大変心強く思っております。

4. 硬式野球部

現在、本学の硬式野球部ではどんな活動をしているか全く知りませんが、小生が在学した時期は



昭和36年優勝記念 小金井グラウンドにて



懇談会 東京八重洲口にて

歴史的に記録が出来る程内容が充実していたと思います。その概要を紹介致します。

当時は、「野球部部報」という会報があり、昭和32年秋から年2回春と秋に発行されております。過日荷物を整理している時に、小生が在学していた第4号から4年間の8冊分を見つけたのですが、ガリ版刷りによるもので、当時の状況が大変愉快に思い出されました。

その頃の野球部は学友会に所属し、年間予算は約10万円で、用具類や遠征費等の経費は個人負担も多く我々を悩ましたものでした。本学が加入する組織は東京新大学野球連盟と称し、次の大学が加盟しておりました。

1部 電機大、学芸大、都立大、商船大、水産大、外語大

2部 理科大、電通大、工学院大、不明3校

1, 2部に分かれ春・秋リーグ戦を行い、その都度入替戦も行い、昭和32年には本学は初めて1部に昇格し、37年迄1部で活躍しました。本連盟の優勝、準優勝校は神宮球場での全日本大学野球選手権大会への出場をかけて、東部地区大会に参加することができました。

本学は昭和35,36年と連続して優勝し、東部地区大会（茨城県営球場、法政大学球場）へ出場しましたが、残念ながら神宮への道は阻まれました。

当時の野球部は、部員が20~30名程で、練習場は昭和35年春迄、外野へ打てばすぐオーバーフェンスする狭くて小石の多い小石川グラウンドであり、その後は新設の小金井グラウンドを使用しました。

小金井は神田から行くと時間はかかるのですが、合宿も出来て、グラウンドも広く伸々と練習が出来

ました。野球部長は^{*}土居淳二先生が就任されており、監督が居ないので主将を中心に自分達で練習から試合迄企画立案し、又例の部報を作ったり等それこそ何でもやりました。

特に部報は傑作で、試合の成績や行事の他に部員各自がいたいことを書つづって、今見てもよくここ迄……と感心する内容です。

部員は、高校時代硬式野球の経験者がほんのわずかで、ボールを初めて握った者が大半でした。野球は好きだが、本当の意味の野球は知らないという集団で、気がむくと練習に出てくるといった者も居たり、その点非常に自由で野球を楽しんでいるという感じてした。高校時代受験の為に部活の出来なかった素質ある学生もいたことは確かですが、理系の大学でありながら、厳しい練習に耐え好成績をおさめることができたのは、共に汗を流した者同志が心を通じ合い、途中で落伍しなかった不屈の闘志によるものであると思います。この精神は、社会人になっても役立っています。この間、学友会や先生方から多大な声援と援助を受け、昭和35年には野球部の後援会も設立され、多方面から支えられていたことを今強く感じます。

今回の後援会は参加人数も増やし、現役の参加も促し、最近の活動状況も聞いて大いに楽しみたいと思います。

こういう野球部を御存知だったでしょうか！

* 土居先生は、平成6年7月9日にお亡くなりになりました。ご冥福をお祈り致します。